

第 29 期

(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

## 第 29 期（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月） 事業報告書

公益法人へ移行後 5 期目の第 29 期、平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）は、前年度に続き、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 12 号」を発行し、母体会社の双日株式会社を始め関係先への配布を行い、また外部に対する情報公開として財団ホームページの管理・運営を継続実行した。

財団の財政収支面では、今年度も双日㈱から事業費及び管理費向に 500 万円の寄附があった。基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、平成 27 年度年間で 4,023 万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、評価益が 1 億 51 万円となり、今期末の基本財産額は前期末比 1 億 70 万円強増加の合計 22 億 6,643 万円となった。

### 〔I〕 今期の事業の概要

#### a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成 27 年度事業計画に定められていた 43 案件計 3,386 万円の助成を実施した。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

#### イ) 学術研究助成

- ・ライシャワーセンター/日米関係研究活動への助成 (80 万円)

日本理解を促進し日米関係の健全な育成のために行うジョン・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院同センターの下記諸活動に対して助成。

- ① 日米関係年次報告書制作プロジェクト
- ② 日米とアジア間における外交、経済、エネルギー問題検討するプラットフォームプロジェクト
- ③ 日本人客員研究員招聘プロジェクト 他

#### ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (1,710 万円)

今年度 5 月～6 月の補充選考を経て、前年度に続き、合計 16 名の以下の奨学生に対し奨学金を支給した。

- ① アフメドフ アリシエル (立命館アジア太平洋大学 国際経営学部)
- ② ジラワンシリグン ピーラパット (立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部)
- ③ オフォリ サムエル カベナ (筑波大学大学院 システム情報工学研究科)
- ④ センゲンド ケネス ポール (東京工業大学大学院 理工学研究科)

- ⑤キウ ビック ハイネ (横浜国立大学大学院 国際社会科学府)
- ⑥バチスタ ジョージ モロニティシェイラ (名古屋大学大学院 情報科学研究科)
- ⑦キン パ (大阪大学大学院 人間科学研究科)
- ⑧グティエス マシエル (早稲田大学大学院 国際コミュニケーション研究科)
- ⑨ソウ ブンケイ (北海道大学大学院 法学研究科)
- ⑩ジャレ カジュクリ ネジャド (東北大学大学院 医学系研究科)
- ⑪ソリナ (東京大学大学院 農業生命科学研究科)
- ⑫ロウ イカン (一橋大学大学院 経済学研究科)
- ⑬ソン ヨオク (慶応義塾大学大学院 法学研究科)
- ⑭キンユア レイバン キスインジ (上智大学大学院 グローバルスタディ研究科)
- ⑮チョウ ゲイトウ (京都大学 工学部)
- ⑯トリバー三世・クラランス ハリー (九州大学大学院 工学府)

2. 国際大学奨学金制度への助成 (200万円)  
 国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中  
 の Sojitz Foundation Scholarship に対して助成を行った。

ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

1. 「第 67 回 日米学生会議」への助成 (40万円)  
 「過去と向き合い未来を拓く～衝突と多様性から生まれる新たな相違理解～」を  
 テーマに日本国内 4 地域を巡りながら率直な対話を重ね相互理解に努めた。  
 開催時期： 2015 年 8 月 3 日～23 日  
 開催地： 日本 (広島、島根、京都、東京)  
 参加人員： 日本側 36 名、 米国側 35 名 計 71 名
2. 「第 34 回 日中学生会議」への助成 (40万円)  
 「論じ感じる、遠くて近い存在～向き合う日中、創り上げる未来へ～」をテーマに分科  
 会 (教育・安全保障・情報・開発と環境・貿易・歴史) 討論・文化交流・フィールドワ  
 ークを中心に、広島、京都、東京にて開催。  
 開催時期： 2015 年 8 月 11 日～26 日  
 開催地： 日本 (広島・京都・東京)  
 参加人員： 日本側 31 名、中国側 31 名 計 62 名
3. 「第 31 回 日韓学生フォーラム」への助成 (40万円)  
 「Action!-Respect each other for stepping forward-」をスローガンに、日本で開催。観  
 光、大学生、教育、オタク、戦争と平和をテーマにしたシンポジウムを開催し、政治/経  
 済/歴史/社会/文化に分かれて分科会にてディスカッションを行った。

開催時期： 2015年8月5日～20日  
開催地： 日本（長崎・大阪・東京）  
参加人員： 日本側12名、韓国側15名 計27名

4. 「第27回 日本ロシア学生会議」への助成 (40万円)  
「エネルギー政策と今後の展望」、「LGBT政策と今後について」、「持続可能な地域の取り組みについて」、「日ロ間の現状認識と今後」について、それぞれ事前に現状分析、課題抽出、解決策を案出し、互いに意見交流をした。  
開催時期： 2015年8月11日～25日  
開催地： ロシア（ハバロフスク・ウラジオストク）  
参加人員： 日本側17名、ロシア側15名 計32名
5. 「第19期 日本インド学生会議」への助成 (40万円)  
文化、社会、経済、教育の諸問題についての分科会討論や企業・施設訪問を通じて交流。  
開催時期： 2015年8月12日～9月4日  
開催地： インド（デリー・チェンナイ・コルカタ）  
参加人員： 日本側9名、インド側延べ34名 計43名
6. 「第16期 日本ケニア学生会議」への助成 (35万円)  
インフラ-防災対策-、インフラ-交通-、経済、宗教、政治-領土問題-等につき分科会討論を行った。又、ホームステイもした。  
開催時期： 2015年8月21日～29日  
開催地： 日本（大阪・京都・東京）  
参加人員： 日本側6名、ケニア側3名 計9名
7. 「第61回 国際学生会議」への助成 (40万円)  
「異文化理解による平和への貢献を」をテーマに、分科会(ナショナルアイデンティティ、食の流通における安全と差別、LGBTフレンドリーな社会に向けて、越境する市民関係、教育とグローバリゼーション)でのディスカッション、研修旅行、日本文化体験などを通して交流した。  
開催時期： 2015年8月20日～9月1日  
開催地： 日本（東京、京都、大阪、神戸、岡山、九州）  
参加人員： 11カ国から56名が参加（日本35名）  
  
参加人員： 日本側13名、中国側12名、韓国側12名 計36名
8. 「第13回 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」への助成 (40万円)  
5つのトピック、「暴力」「分離壁」「入植地」「難民」「近況とその先へ」のについて、プレゼンテーション、質疑応答、議論を通してお互いの理解を深めた。又、中高生を対象とし

たセミナーを開催した。

開催時期： 2015年8月7日～8月24日

開催地： 日本（広島、東京）

参加人員： 日本人13名、イスラエル人6名、パレスチナ人3名 計22名

9. 「第9回 日本ベトナム学生会議」への助成 (40万円)

医療・保健衛生、文化・服飾に関し分科会討論を行い、文化交流会、企業訪問、ホームステイなどを通じて交流した。

開催時期： 2015年8月4日～8月18日

開催地： ベトナム（ハノイ）

参加人員： 日本側9名、ベトナム側15名 計24名

10. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム2015本会議日本大会」への助成 (35万円)

日本、アフリカ、中近東、東欧など9ヶ国からの学生・教授、准教授50名が東京に集り、「平和」をテーマに、国際的な関心事について学び、対話し、議論を行った。

開催時期： 2015年8月7日～15日

開催地： 日本（広島・東京）

参加人員： 日本17名、インド、オーストラリア、キルギスタン、スイス、ブルガリア、南アフリカ、メキシコ等より58名 計75名

11. 「第10回日本台湾学生会議」への助成 (40万円)

「じゅーっと仲良く日本と台湾」をモットーに、SNSの可能性、外国人参政権、日本・台湾のプロ野球比較、食料自給率の現状とその未来+TPP、IT、ジェンダー・LGBT、若者の心理、外国語教育のテーマに分かれて、討議した。

開催時期： 2015年8月17日～22日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本側34名、台湾側50名 計84名

12. 「第13回 日本ルワンダ学生会議」への助成 (35万円)

「日本のビジネスの特徴」、「ルワンダの安全保障」等9テーマにつき、日本・ルワンダ側からプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行い、理解を深めた。又、広島・岡山でフィールドワークを行い文化交流をした。

開催時期： 2015年7月31日～8月21日

開催地： 日本（東京、広島、岡山）

参加人員： 日本15名、ルワンダ4名 計19名

13. 「日中学生交流団体 free-bird JAPAN TRIP 2015」への助成 (30万円)

「観光」、「SNS」につき討論会を行い、締めくくりのパネルディスカッションでは

「JAPANTRIP 中の生活」というテーマを加え日本人と中国人との共通点や相違点を発表した。京都でのフィールドワークを行い、大阪・奈良への観光も実施した。

開催時期： 2015年8月15日～8月24日

開催地： 日本（京都）

参加人員： 日本側19名、中国側18名 計37名

14. 「2015年度日中青年会議」への助成 (35万円)

国際関係における公平性、平等性に関して話し合い、共に考えることで批判的思考を身に付け、異文化理解を深めた。

開催時期： 2015年7月24日～30日

開催地： 中国（香港）

参加人員： 日本15名、中国20名、オーガナイザー32名 計67名

15. 「Bizjapan Summit 2015」への助成 (30万円)

シンガポール、韓国、ヨルダン、パキスタン、インド、インドネシア、フィリピン、オーストラリア等からの学生を日本に招聘し、日本側学生とミックスチームを作り、新たなソーシャルビジネスを考案し発表した。企業訪問、日本文化体験も行った。

開催時期： 2016年2月14日～2月21日

開催地： 日本（東京、仙台）

参加者： 日本側5大学から30名、海外側14ヶ国・地域から15名 計45名

16. 「2016模擬国連会議全米大会第33代日本代表団派遣事業」への助成 (25万円)

今年度の提携校ミシガン州中央ミシガン大学の学生と交流を行い日本文化の紹介をした。ニューヨークでは国連が取り扱う国際問題を解決する為に議論をした。中央ミシガン大学との合同代表団で、ナイジェリア大使という立場で各会議に参加した。

開催時期： 2016年3月12日～31日

開催地： アメリカ（ミシガン、ニューヨーク）

参加人員： 日本側10名、アメリカ・ドイツ・フランス・韓国・ブラジルなど世界30カ国の大学から約5,000名

17. 「Y20 Youth Summit 2015」への助成 (30万円)

毎回G20サミット開催に合わせて開かれるこのYouth Summitは、今年度は、トルコ・イスタンブールでの開催。開催前からネットで議論を重ね、会議では「若者の失業」、「平和に対する若者の貢献」、「21世紀における若者と教育」に付き討議を行い、G20のリーダーへの提言を行った。

開催時期： 2015年8月16日～21日

開催地： トルコ（イスタンブール）

参加人員： 日本側5名、インドとサウジアラビアを除くG20諸国及び招待国6カ国より89名 合計94名

18. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2015」への助成 (30万円)  
「2025年に向けてー北東アジア6ヵ国地域10ヵ年計画ー」というテーマで6ヶ国の学生が、移民、環境、教育、人権の分科会で討論した。  
開催時期： 2015年8月5日～8月13日  
開催地： 日本(秋田)  
参加人員： 日本22名、モンゴル12名、韓国11名、中国5名、台湾13名、ロシア1名 計64名
19. 「日中相互訪問プロジェクト 2015」への助成 (30万円)  
「人間関係～恋愛・学校・家族・企業・日中関係～」を大テーマとして、恋愛・企業・日中関係・家族のテーマで、議論し、発表した。文化体験、ホームステイも実施した。  
開催時期： 2015年8月13日～8月28日  
開催地： 日本(東京、福井県鯖江市)及び中国(北京)  
参加人員： 日本16名、中国14名 計30名
20. 「2015年度日本中東青年対話プログラム」への助成 (30万円)  
「21世紀に入ってから現在までのイラク情勢」をテーマとして、分科会ではメディア・教育・国際関係・難民という観点からイラク情勢考察した。又、議論の対象を中東地域全体をより多角的に分析することを目指した。文化交流・フィールドワークも実施した。  
開催時期： 2015年8月17日～8月27日  
開催地： 日本(東京)  
参加人員： 日本側14名、中東側8名 計22名

(国際交流)

21. 「“Mr.J”プロジェクトチーム 日本語夏期講習サマースクール」への助成 (40万円)  
ウランバートルにある「新モンゴル高校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。  
開催時期： 2015年7月20日～8月21日
22. 「Soulでダンス・ダンス・ダンス 2015 中高校生交流プログラム」への助成 (30万円)  
ソウルの宿舎で共同生活を送りながらダンスの創作活動、買い物体験を通じてお互い相手の言葉・文化を学びつつ交流した。  
開催時期： 2015年8月9日～8月14日  
開催地： 韓国(ソウル市)  
参加人員： 日本18名、韓国17名 計35名

23. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成 ( US \$ 3,000. - ≙ 36万円 )  
米国の NPO 法人 CEPEX が、行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントン DC の日本企業での 2 週間のインターンシップの経験及び 10 日間の日本訪問の機会が与えられた。  
開催時期： 2015 年 5 月、6 月  
開催地： 米国 (ワシントン)、日本 (東京)
24. 「ウォールアートフェスティバル 2016」への助成 ( 20 万円 )  
学校の校舎の壁をキャンバスにして、日本とインドのアーティストが 17 日間の滞在制作を行い、地元の子どもたちにアートの力を伝え、学校の楽しさを伝えて交流し、その模様をメディアを通じて内外に伝え、地域の活性化を目指すプロジェクト。  
実施時期： 2016 年 2 月 27 日～29 日  
開催地： インド (マハラート州、ガンシャード村)  
参加人員： アーティスト 5 名、日本ボランティア 40 名、インドボランティア 45 名、入場者約 3500 名
25. 「日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業」への助成 (30 万円)  
インドネシアへの渡航前から数回研修会を行い、ゴミ問題をテーマにしたワークショップを開催し、意見交換をした。ホームステイ・文化交流をした。  
開催時期：2015 年 8 月 28 日～9 月 13 日  
開催地： インドネシア (ジャカルタ)  
参加人員：日本選抜 5 名、日本・インドネシア協力者：約 550 名
26. 「第 5 回日中学生交流」への助成 ( 30 万円 )  
中国の地方の大学生を日本に招き、関西の大学生と交流を行った。文楽鑑賞、姫路城見学などを行い日本の文化への理解を深めてもらった。  
開催時期： 2015 年 6 月 16 日～22 日  
開催地： 日本 (大阪)  
参加人員： 日本 103 名、中国 7 名 計 110 名
27. 「HLAB Tokyo 2015(エイチラボ東京 2015)」への助成 ( 30 万円 )  
リベラル・アーツ・セミナー、ゲストスピーカーによるフォーラム、ワークショップ、ゲストの社会人と大学生・高校生が参加する座談会等によりキャリアや進路から人生相談など、大学生・高校生が主体的に将来を考えるきっかけを創る共に文化交流をした。  
開催時期： 2015 年 8 月 10 日～8 月 27 日  
開催地： 日本 (東京)  
参加人員： 日本高校生 80 名、大学生他 57 名、海外大学生 24 名 計 161 名



28. 「日本メキシコ学生交流プログラム 2015」 への助成 ( 30 万円 )

日本語を勉強しているメキシコの学生に日本を更に理解してもらうプログラムで、語学研修、文化交流、パネルディスカッション、ホームステイを行い、交流をした。

開催時期： 2015 年 7 月 9 日～8 月 10 日

開催地： 日本（千葉県御宿、東京他）

参加者： メキシコ 9 名、地元の人々他

29. 「Experience Japan Project 2015」 への助成 ( 30 万円 )

「社会に貢献する」をテーマに、東京や東北でフィールドワークを行い、日本の先進事例や問題を学び、自国との比較により発見した問題に対する解決策を考察した。

開催時期： 2015 年 8 月 4 日～8 月 13 日

開催地： 日本（東京、会津）

参加人員： 日本 11 名、マレーシア、フィリピン、ベトナム等より 5 名 計 16 名

30. 「カンボジア学生教育研修事業」 への助成 ( 30 万円 )

カンボジアの学生が小学校や高校を訪問し、実際に日本の教育環境を体験することで学習者中心の教育法に対する理解を深めた。

開催時期： 2015 年 12 月 8 日～12 月 15 日

開催地： 日本（大阪・京都）

参加者： 日本 7 名、韓国 5 名 計 12 名

31. 奨学生交流会 (161 万円 )

財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3 日目は群馬方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。

開催時期： 2015 年 9 月 17 日～29 日

参加者： 奨学生・奨学生 OB 19 名、 役員他関係者 35 名 計 54 名

(日本文化紹介等)

32. 「第 40 回 ジャパンウィーク 2015 年フィンランド・ヘルシンキ」 への助成 ( 40 万円 )

日本から参加する多くの団体による、日本の伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、スポーツ等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本に対する理解を深めると同時に、地元市民との交流を図る企画。今年度はフィンランド・ヘルシンキで開催された。

開催時期： 2015 年 10 月 21 日～10 月 26 日

開催地： フィンランド（ヘルシンキ）

参加者： 日本側 68 団体 1000 名、フィンランド側 8 団体 50 名、見学者約 64,000 人

33. 「マジック公演と折り紙講習会（スリランカ）」への助成 （ 20 万円 ）  
NPO 法人オアシスが、今年度はスリランカの SOS 子供の家、スリランカ・コロンボ近郊の SOS 子供村等を訪れ、マジックと折り紙の公演を通じて、子供達を中心とした地元の人々と交流した。  
開催時期： 2015 年 4 月 13 日～19 日  
開催地： スリランカ(ピリヤンダラ、モノラーガラ等)  
参加人員： （公演 5 回）延べ観客数 計 610 人
34. 「プラハ尺八フェスティバル 2015」への助成 （ 30 万円 ）  
ヨーロッパの尺八学習者を対象に、チェコのプラハで 4 日間の合宿型教育・芸術プログラム「プラハ尺八フェスティバル」が開催され、日本及び地元の尺八指導者、三味線、箏の指導者により、講義・公開レッスン、演奏会、ワークショップ等が行われた。  
開催時期： 2015 年 8 月 21 日～25 日  
開催地： チェコ（プラハ）  
参加人員： 講師（日本：4 名、欧州：6 名）、参加者（10 ヶ国）21 名
35. 「日本舞踊」欧州公演への助成 （ 30 万円 ）  
イタリアの劇場オペラでは日本舞踊出演と日本文化のサポートを行い、イタリアとフランスで日本舞踊と三味線・浄瑠璃披露とワークショップを行った。  
開催時期： 2015 年 4 月 10 日～17 日  
開催地： イタリア(ビトント)、フランス（パリ）  
参加人員： 日本 8 名 観客 1950 名

(日本語普及事業等)

36. 中国・對外經濟貿易大学に対する日本語教材（辞書）の寄贈 （ 20 万円 ）  
日本語普及事業として、北京の對外經濟貿易大学の日本語学科の学生 19 名に対し、日本語の辞書を中心とした日本語学習用図書を寄贈した。  
実施時期： 2015 年 12 月 11 日
37. 中国・華東師範大学日本語学科への日本語辞典の寄贈 （ 5 万円 ）  
日本語普及事業として、上海の華東師範大学の日本語学科への新入学生 48 名に対し、日本語の辞書を寄贈した。  
実施時期： 2015 年 10 月 14 日
38. 「インドネシア語版・日本民話絵本の寄贈を通じた日本文化理解の促進」への助成 （ 20 万円 ）  
「わらしべ長者」のインドネシア語の絵本を作成し、小学校へ配布した。日本文化の紹介に貢献した。

開催時期： 2016年3月21日～24日

開催地： インドネシア（バリ）

150部印刷

39. 「第20回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」への助成 (30万円)

各国の予選を通過した代表を日本に招聘し、スピーチコンテストが行われた。

異文化交流プログラムも行われ、お互いの文化を理解し、ホームステイも行われ、国境を超えた友情を深めた。

開催時期：2015年7月23日～8月4日

開催地： 日本（川崎・松山）

参加者： 13カ国(中国、韓国、シンガポール、アメリカ、カナダ等) 計15名  
大会観客700名、各国(予選)大会総出場者 約3万名

40. 「東南アジア8カ国の学生による日本語コミュニケーションコンテスト」への助成  
(30万円)

第一次審査ではグループディスカッションを行い、第二次審査でスピーチコンテストを行った。

開催時期： 2015年9月19・20日

開催地： ベトナム（ホーチミン）

参加人員： 東南アジア8カ国より8名、来場者数約800名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。 合計149万円。

1. 財団ホームページの更新・運営 (38万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第12号」の発行 (111万円)

平成27年9月「財団だより - 第12号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、平成26年度の事業報告及び財団の活動のPRを行った。

## [II] 管理・庶務事項

平成 27 年 4 月 1 日 平成 27 年度奨学生募集を開始

5 月 11、12 日 会計監査人による決算監査

5 月 26 日 第 85 回理事会を「決議の省略」の方法で開催

- ・ 平成 26 年度事業報告書及び決算報告書を承認
- ・ 6 月 11 日の定時評議員会開催を決議

6 月 4 日 第 88 回選考委員会を紙上開催

- ・ 平成 27 年度奨学生 8 名を補充選考

6 月 11 日 第 67 回定時評議員会を開催

- ・ 任期満了に伴う評議員 6 名の再任、又、新任坂下清信評議員を選任
- ・ 任期満了に伴う理事 8 名・監事 1 名の再任、  
新任佐藤廣士理事及び安田新太郎監事を選任
- ・ 平成 26 年度の事業報告並びに決算報告を了承

第 86 回理事会を開催

- ・ 加瀬豊理事を理事長に重任、櫛引雅亮理事を専務理事に重任
- ・ 理事長・専務理事の職務執行状況の報告

6 月 30 日 平成 26 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出

9 月 11 日 機関誌「財団だより 第 12 号」を発行

9 月 17 日～19 日 「財団奨学生交流会」を開催

11 月 1 日 平成 28 年度国際交流助成募集開始

12 月 31 日 平成 28 年度国際交流助成募集〆切

平成 28 年 2 月 22 日 第 89 回選考委員会を開催

- ・ 平成 28 年度助成案件を選考

3 月 16 日 第 87 回理事会を開催

- ・ 平成 28 年度助成案件(案)及び平成 28 年度事業計画(案)を承認
- ・ 平成 28 年度収支予算(案)を承認
- ・ 現選考委員 5 名を平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日の任期で  
重任選任
- ・ 理事長・専務理事の職務執行状況の報告

3 月 30 日 平成 28 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上